

Panasonic System Report

公益財団法人 東京都歴史文化財団
江戸東京博物館様

全体概要

プロジェクター

PJS-123

1/4

公共施設

公益財団法人 東京都歴史文化財団 江戸東京博物館様

江戸の文化を今に伝え、
東京の未来を考える博物館の
映像システムが一新されました。

■納入システム

プロジェクター大画面システム

徳川の時代から大都会として繁栄する江戸、
そして明治以降の東京。
その歴史と文化に関わる資料を
様々な形で保存・展示する江戸東京博物館。
2015年3月、ここの展示システムが
大きくリニューアル、
パナソニックプロジェクターが鮮明な大画面で
江戸の文化を紹介しています。

● 江戸東京博物館 都市歴史研究室 学芸員 沓沢 博行様

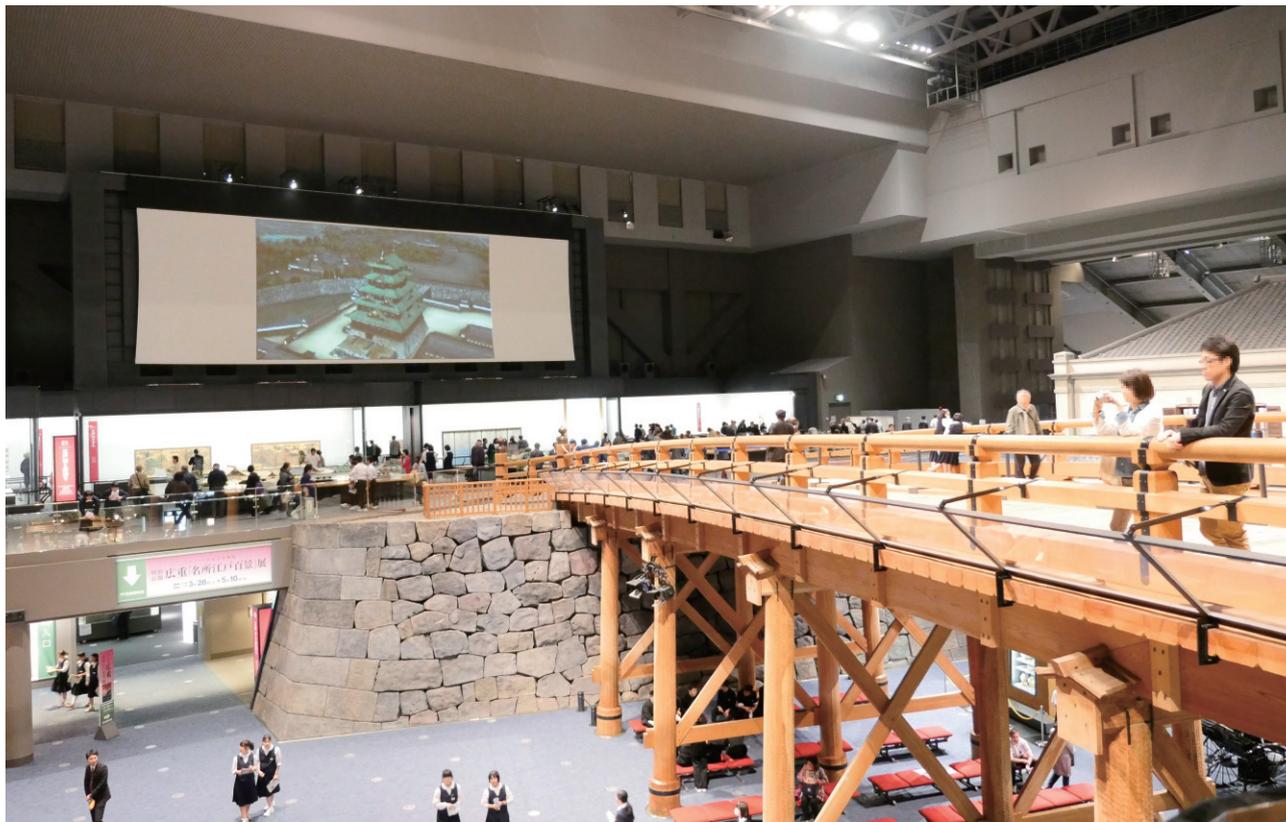
照明設備をLED化した結果、以前に比べて館内が明るくなりました。それに際してもっと明るいプロジェクターを導入し、映像がきれいになったと感じています。今後はこの鮮明画像を生かし、常設展示と密接に関わったコンテンツも上映したいと考えています。



江戸の文化や歴史を伝え、東京の明日を考える博物館。

江戸東京博物館は、徳川家康が開府した当時の歴史と文化の資料を、近代都市東京の未来に伝えることを目的に平成5年に開館した、豊富な資料や復元模型を通して楽しみながら学べる博物館です。江戸東京の歴史・文化を展示する常設展示室と、その都度テーマを変える企画展示室、特別展示室に大きく分かれ、多様な視点から意義深い展示を実施しておられます。

開館から概ね5年周期で映像音響設備のリニューアルをしてこられてきましたが、2015年3月、約22年ぶりに常設展示室を大幅にリニューアル。それに伴い館内の映像音響設備も約7年ぶりにリニューアルすることになり、数社によるコンペの結果、様々な場所にパナソニックの映像音響システムをご採用いただきました。



日本橋のレプリカを渡った先に300型ワイドスクリーン

実寸大の日本橋が渡る常設展示室「江戸ゾーン」、300型のワイドスクリーンに、「江戸城」を投写。

江戸東京博物館でとりわけ人気が高い常設展示室、その一角に「江戸ゾーン」があります。日本橋が実寸大で復元され、橋の向こうには300型のワイドスクリーンが。ここには江戸城の再現CGが投写されています。「16:4のワイドスクリーンで、しかも空間

が広いので今まではやや見づらかったのですが、今回のリニューアルで明るい映像でご覧いただけると考えます」と沓沢様。今後も展示内容と連動した映像を企画していきたいと言われます。



人との対比でスクリーンの大きさが際立ちます



300型ワイドスクリーンに投写するPT-DZ21K

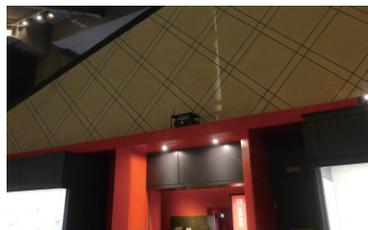
「江戸ゾーン」、もう一つの人気の施設、精巧なジオラマにも150型大画面を設置。

5階と6階が吹き抜けになった大きな展示室は、「江戸ゾーン」「東京ゾーン」「第2企画展示室」で構成されています。綿密な調査研究を踏まえて復元した実物大の大型模型や当時の様子を忠実に再現した縮尺模型ジオラマは人気のコーナー。ここに

は150型の画面を設置。ジオラマをカメラで捉え、大きく映し出すことで、さながら見る人を古の江戸の街に立つかのように楽しめます。



精巧な作りの「江戸」ジオラマ



スクリーン対面の梁にはPT-DX810を配置



プロジェクターには小型モニター用カメラを設置、実際の投写状況を常時監視します

1階の多目的ホール「映像ホール」ではPT-DZ21Kが200型の鮮明大画面を投写

来場者向けに映像作品の上映を行ったり、団体向けのガイダンスや講義等に利用される「映像ホール」は、以前3面のスクリーンをご使用でした。それをWUXGAリアル対応のPT-DZ21Kによる200型ワイドスクリーン1面のシステムにマイナーチェンジ。かつ

異なる資料の提示等に3面のスクリーンを使用していました。高精細なPT-DZ21Kなら、1面のスクリーンに分割表示も行えます。しかも20000lmという高輝度により、ホールの照明を落とすことなく鮮明画像を投写可能。講義などで活躍しています。



見やすい1面ワイドスクリーンに変わった映像ホール



映像ホールにもPT-DZ21Kをご採用

貸出し施設の「大ホール」にはPT-DZ870。様々な用途に利用されています。

約400名強を収容する大ホールは貸出し施設として、多目的な運用に対応する目的でリニューアルされました。歴史・文化関連のセミナーや講座、映画上映などに利用されています。講座などでは年配の受講者が多く、資料提示は明るいことが必須。



約450人収容の大ホール

「PT-DZ870にして以前よりかなり明るい映像になりました。細かな文字もくっきり見えて、年配の方にもよくご利用いただいています」と沓沢様は喜ばれます。



鮮明な映像を投写するPT-DZ870K

会議室ではセミナースタイルでPT-DW740をご採用。照明を落とすことなく鮮明な映像を投写しています。

会議室の主な用途は、生涯学習などの様々な講座や企業の利用。就職説明会などにも利用されるとのこと。プレゼンターの話の聞きながらの受講ではメモを取ることもあり、照明は落とせま

せん。そんな環境でもPT-DW740は見やすい鮮明大画面を映し出しています。



150名規模の会議室、メモが取れる明るさが必要です



会議室後方のPT-DW740

ひとまわり小さな学習室にはPT-DW640。2部屋使用・1部屋使用に使い分けられます。

会議や催事、講習買いなどに使用される学習室1、学習室2。各々にPT-DW640をご採用頂きました。それぞれ50名程度の通常教室の大きさですから、プロジェクターの明るさは十分。ここは

中央の仕切りを外して1部屋としても使用可能。その際も、PT-DW640は照明を落とさなくても見やすい鮮明大画面を投写しています。



学習室には2台のPT-DW640を設置



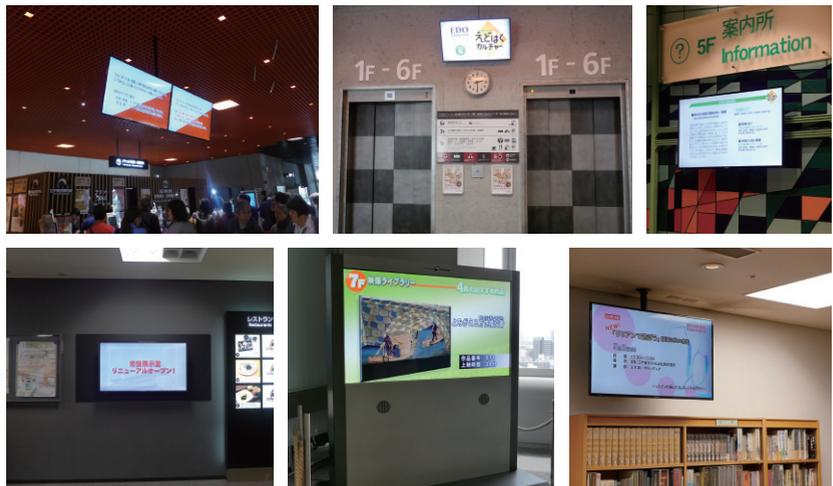
120型巻上げ式スクリーンに投写



公益財団法人 東京都歴史文化財団 江戸東京博物館様	全体概要	プロジェクター	PJS-123	4/4
			公共施設	

館内の随所にフラットディスプレイを設置、お客様への情報提示はデジタル化をベースに。

チケット窓口が始まってエレベーターホールや館内各所に、フラットパネルによるデジタルサイネージを数多く導入されました。「従来はポスターなど紙による案内でしたが、前回リニューアル時からデジタルを導入しました。スタッフとも話して、今後はデジタル化をさらに拡大させるつもり」と沓沢様。タッチパネル式の案内板も導入しましたが、お客様には年配の方も多く、タッチパネルのサイズや使い勝手など、まだ工夫の余地はあるとも言われます。



館内の映像や音声はAVセンターで集中制御



江戸東京博物館は都内に住む人にも、ツアー客にも人気の施設。常設展示室には日に4000人は来られる人気のスポットです。音声ガイダンスも導入し、現在は4ヶ国語に対応。2020年の東京オリンピック・パラリンピックを控えてさらなる多言語展開もお考えです。「ロンドンへ行ったら大英博へ、パリではルーブルへ、東京では江戸博へ」というスローガンの実践は着実に進んでいます。

■納入機器

	【映像ホール】 3チップDLP®方式プロジェクター PT-DZ21K×2台		【学習室】 1チップDLP®方式プロジェクター PT-DW640×2台		【フラットディスプレイ】 50型 TH-50LFE7J×6台
	【大ホール】 1チップDLP®方式プロジェクター PT-DZ870×1台		【6F常設展示室・江戸ゾーン】 3チップDLP®方式プロジェクター PT-DZ21K×2台		55型 TH-55LF60J×4台
	【大会議室】 1チップDLP®方式プロジェクター PT-DW740×1台		【5F常設展示室・両国橋ジオラマ】 1チップDLP®方式プロジェクター PT-DX810×1台		70型 TH-70LF50J×2台



■公益財団法人 東京都歴史文化財団 江戸東京博物館様

■所在地:東京都墨田区横網 ■納入年月:2015(平成27)年3月



■システム設計 パナソニックシステムネットワークス株式会社
システムソリューションズジャパンカンパニー
■発行 パナソニック株式会社 AVCネットワークス社
〒571-8503 大阪府門真市松葉町2番15号 (2015年8月)